

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	農地保全型簡易基盤整備事業	会計	一般会計	事業No.	555	施策順No.	11-066
		事業種別	政策・重点	予算科目	6-1-7-31-1		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	土木課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	5	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	農振地域内の農用地。						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		・農振地域内農用地:ha	3240	3240	3202	3202	3202	
	意図	・遊休荒廃農地・条件不良農地(区画形状の悪い農地、道が無く農業機械の入らない農地等)を整備し、機械化による労力節減、生産性の向上を図る。又、荒廃桑園等の抜根をし、汎用性の高い農地に転換させる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	本事業による、整備箇所数:か所	17	16	15	10	12	10	A
	本事業による、整備面積:ha		3.4	3.4	2.5	3	2.5	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	目標の整備面積が達成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	・農地の持続的活用、遊休農地の活性化、汎用性の高い農地への転換を図るため、農家等が実施した区画の整理・暗渠排水・樹木の抜根・耕作道の新設事業に対し、工事費の1/2以内の額の補助金を交付。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	農家等が行う、区画の整理・暗渠排水・樹木の抜根・耕作道の新設事業に対し補助金を交付	簡易基盤整備実施面積	A=2.5ha
23年度実施計画	農家等が行う、区画の整理・暗渠排水・樹木の抜根・耕作道の新設事業に対し補助金を交付	簡易基盤整備実施面積	A=2.0ha

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補正事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		2,400	2,035	2,300	
	計(A)		2,400	2,035	2,300	
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			0		
	トータルコスト A+B			2,035		

4 事業に対する市民や議会の意見

<p>・「遊休・荒廃農地が年々増加しているが、その実態と防止策は」(平成15年度6月議員質問) 答弁 集落営農の育成や、特区による規制緩和を受けて農作業の受委託や市民農園の開設など遊休荒廃農地の解消と利活用を進める。 ・農家からの問い合わせが多く寄せられており、申請年度年度に採択できず次年度再申請してもらうケースが増加している。</p>

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業内容	施策の成果指標又はムトス指標	備考
		・事業者等 ・出荷額等を高める活動をする		・既存農業者の生産額(農業):億円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・遊休荒廃農地・条件不良農地(区画形状の悪い農地、道が無く農業機械の入らない農地等)を整備し、機械化による労力節減、生産性の向上や、荒廃桑園等の抜根をし、汎用性の高い農地に転換させるため農家に補助をした。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	農家等が行う、区画の整理・暗渠排水・樹木の抜根・耕作道の新設事業に対し補助金を交付した。		
	後期に向けた課題	指導と助言をする。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	特になし。		
	後期に向けた課題	特になし。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	適切でした。		
	後期に向けた課題	特になし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	特になし。		
	後期に向けた課題	特になし。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・遊休荒廃農地・条件不良農地(区画形状の悪い農地、道が無く農業機械の入らない農地等)を整備し、機械化による労力節減、生産性の向上を図り、荒廃桑園等の抜根をし、汎用性の高い農地に転換させた。		
	後期に向けた課題	・過疎化や農家の高齢化等の進展、若者の農業離れによる労力不足。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------